8380A

オペレーティング・マニュアル

Genelec 8380A
スマート・アクティブ・モニター

GENELEC®

Genelec 8380A オペレーティング・マニュアル

はじめに

Genelec 製品をお選びいただき誠にありがとうございます。信頼性の高いサウンド再生を通してお客様の夢を実現すること。それこそが、1978 年の創業以来、Genelec の情熱の源であり続けています。現在、世界中で 100 万台以上の Genelec モニターが活躍しています。私たちの歩みを、ぜひ共に見届けてください！

Genelec モニターは長期にわたる使用を想定して設計されており、保守部品の供給も将来にわたって確保されています。すべての製品は、フィンランド・イーサルミの自社工場で、認証を受けたサステナブルな手法により丁寧にハンドメイドで製造されています。また、出荷前に一台ずつ厳格なテストとキャリブレーションが行われ、最高のパフォーマンスを発揮できるように仕上げられています。省エネルギーへの配慮もされており、運用時はもちろん、スタンバイ時にも消費電力を最小限に抑えるよう設計されています。

Genelec のウェブサイト（www.genelec.jp/register-products/）にて製品をご登録ください。これにより保証期間が 5 年に延長されます。Genelec カスタマー・サービスについての詳細は以下のリンクをご参照ください
www.genelec.jp/customer-service/

本製品は、聴覚に深刻かつ永続的な障害を引き起こすおそれがあります。電源を投入する前に、本マニュアルの注意事項をよくお読みください。稼働中のシステム付近で作業する場合は、聴覚保護具を必ず着用してください。

システム

Genelec 8380A は、中規模のコントロール・ルームに最適な 3 ウェイ・モニタリング・システムです。単体での設置はもちろん、コントロール・ルームの壁面への埋め込み型設置でも、優れたパフォーマンスを保証します。 レコーディング、映画、ポスト・プロダクション、放送、マスタリング、プレミアムなホーム・オーディオ環境の分野に最適です。

MDC™（Minimum Diffraction Coaxial ™）ドライバーは、他に類を見ない優れた指向性コントロールを実現する同軸ドライバー構造を採用しています。パワフルなミッドレンジ・ドライバーが高出力ツイーターを取り囲む構造により、超高音域まで伸びる高解像度のレスポンスを実現します。MDC 構造は音の回折を最小限に抑え、音響軸上でのフラットな周波数特性に加え、軸外でのニュートラルなサウンドを提供します。また、大型の DCW ™（Directivity Control Waveguide ™）が軸外での極めてクリーンな音響特性を実現しています。最小リスニング距離は 1.3 メートルで、高速かつ低歪みのアンプにより、2 メートルの距離においてもピーク音圧レベル 124 dB SPL を上回るステレオ再生が可能です。

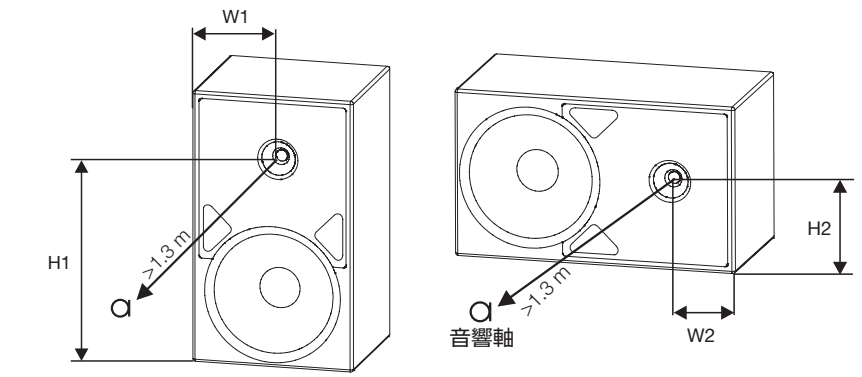
8380A は、8300 シリーズ、The Ones、The Main Ones との位相整合性にも優れ、それらのモデルと組み合わせたシステムでも極めて正確なイメージングを提供します。

ドライバーおよび エンクロージャ設計

8380A は、110 リットルのバスレフ型エンクロージャに 385 mm（15 インチ）ウーファーを搭載し、パワフルで正確な低域再生を実現します。エンクロージャには、剛性に優れた高密度 MDF を採用しています。MDC ™（Minimum Diffraction Coaxial）ミッドレンジ／ツイーター・システムは、130 mm（5 インチ）ミッドレンジ・コーンおよび 25 mm（1 インチ）アルミニウム・ドーム・ツイーターで構成され、ツイーター、ミッドレンジ・ドライバー、DCW の結合部は完全に滑らかで、一体化形状を形成しています。

アンプおよび信号処理

8380A は、RAM-L2 アンプ・ユニットで駆動します。RAM-L2 アンプは、モニター背面のエンクロージャに防振マウントで取り付けられています。アンプ部は、エンクロージャから取り外し、単独で 19 インチ・ラックにマウントすることもできます。



	H1 mm (in)	W1 mm (in)	H2 mm (in)	W2 mm (in)
8380A	607（23 7/8 インチ）	240（9 1/2 インチ）	240（9 1/2 インチ）	203（8 インチ）

図 1. 音響軸の位置

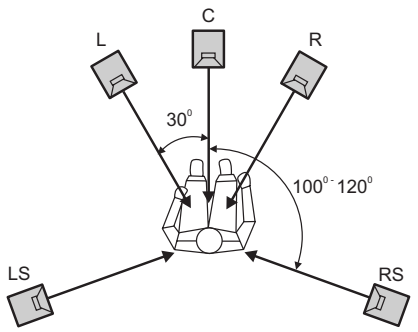


図 2. 5 チャンネル・システムにおける推奨モニター配置およびアラインメント（ITU-R BS.775-1）

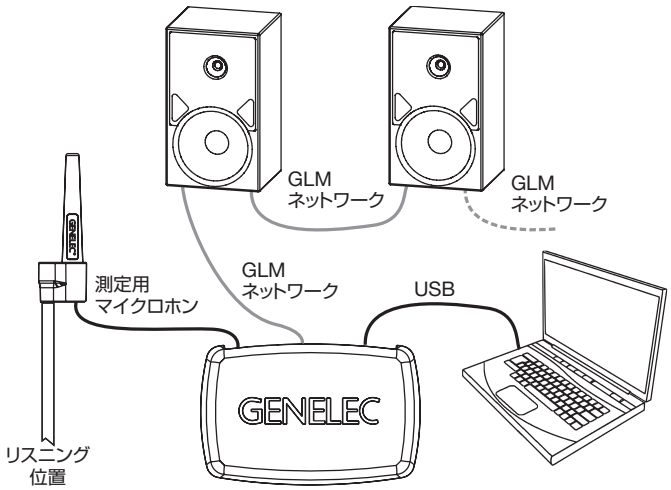


図 3. GLM ネットワークのケーブル接続

RAM-L2 アンプ・ユニットのデジタル信号処理は、高精度アルゴリズムにより実行されており、ドライバーおよびアンプのオーバーロード保護機能も備えます。ルーム・レスポンス補正は、柔軟性の高いパラメトリック・フィルターのほか、レベル／遅延補正など複数の処理で構成されています。これらの処理を組み合わせることで、すべてのコンソールからの出力を室内音響に対して正確に適合させることが可能になります。

スピーカーの取り付け

本製品は、室内での使用のみを想定して設計されています。許容周囲温度は 15 ～ 35℃で、相対湿度は 20 ～ 80%（結露なし）です。製品が低温環境で保管されていた場合の結露を防ぐため、開梱後は最低 1 時間置いてから電源を接続してください。

スピーカーの音響軸（図 1、2 参照）がリスニング・エリアに向くように設置してください。モニターはリスニング位置から等しい距離に左右対称に配置してください。スピーカーやリスニング位置付近の物体による音の反射は、サウンド・イメージの不要な色付けや音のぼやけの原因となります。反射物を対称に配置することで、良好なステレオ・イメージを保つことができます。8380A を壁に埋め込む場合は、壁とモニター前面が連続した平面となるように設置してください。

空間の確保

RAM-L2 アンプをエンクロージャに取り付けている場合は、モニターの背面、上部、両側に最低 5cm の隙間を確保してください。アンプの周囲温度を 35℃以下に保つようにしてください。モニターを壁に埋め込む場合は、モニター背面に十分な換気スペースを確保してください。場合によっては、RAM-L2 アンプ周囲にファンなどによる強制換気が必要となります。

RAM-L2 アンプを 19 インチ・ラックにマウントする場合は、アンプの上下に 1U 以上の空きスペースを設け、左右は完全に解放して通気を確保してください。付属のラックマウント・フロント・プレートを使用すると、アンプの上下にスペースを確保することができます。

RAM-L2 アンプをテーブルや棚などの平らでしっかりした水平面に設置する場合は、ラック・マウント時と同様に必ず横置きで設置してください。アンプを縦置きしたり、通気穴のある側面を下にして設置しないでください。また、通気を確保するため、アンプ底面の下部には 25 mm 以上の空間を確保してください。自然対流による冷却を確保するため、アンプの上方には 250 mm 以上、左右両側には 100 mm 以上の空間を必ず確保してください。

アンプ前面の通気を常に確保し、空気の流れを妨げないようにしてください。複数のアンプを直接積み重ねて設置しないでください。

セットアップおよび使用方法

モニターのキャリブレーションとセットアップ

8380A は、GLM ソフトウェアを用いてセットアップを行います。セットアップは以下の手順で簡単に行えます。

1. モニターのネットワーク端子と GLM ネットワーク内の別のモニターを、LAN（RJ45）ケーブルで接続します。
2. ネットワーク内のすべてのモニターを接続した後、最後のモニターと GLM アダプターのネットワーク入力端子を接続します。

3. GLM アダプターとコンピューターを USB ケーブルで接続します。ケーブルは、GLM Kit(もしくは 9320A SAM ™リファレンス・コントローラー) に付属します。
4. Genelec 測定用マイクロホンをマイク・スタンドに取り付け、リスニング位置に設置します。マイクロホンは上に向け、リスナーの耳の高さに合わせてスタンドを調整します。測定用マイクロホンは、GLM Kit (もしくは 9320A SAM ™リファレンス・コントローラー) に付属しますに付属します。
5. マイク・ケーブルを GLM アダプターのマイク入力に接続します。
6. Genelec のユーザーページ「MyGenelec」(mygenelec.com) から GLM ソフトウェアをダウンロードし、コンピューターにインストールします (MyGenelec から GLM ソフトウェアをダウンロードする際は、アカウントへの登録とログインが必要です)。
7. GLM ソフトウェア画面の指示に従い、モニターの測定とセットアップを行ってください。
8. コンピューターを使用せずにシステムを運用する場合は、GLM ソフトウェアの「Store into Genelec Devices」機能を使用することでモニター本体に設定を保存することができます。

オーディオ入力

8380A は、アナログ・バランス・ライン・レベル信号および AES/EBU デジタル信号でオーディオを入力できます。最大感度に設定した場合、アナログ入力 -6 dBu、またはデジタル入力 -30 dBFSのオーディオ信号に対し、自由空間の 1 メートルの距離で 100dBSPL になります。

デジタル信号が入力されない場合、アナログ入力が自動的に選択されます。デジタル信号が入力されると、それが無音であってもデジタル入力が自動的に選択されます。入力ソースは、GLM ソフトウェアから手動で切り替えることが可能です。

AES/EBU デジタル・オーディオ信号は、1 本のケーブルで 2 チャンネル分の信号を伝送します。このとき使用するチャンネルは、GLM ソフトウェアで選択します。DIGITAL OUT 端子は入力信号をそのまま伝送するため、最大 4 台までのモニターをデイジーチェーン接続できます。

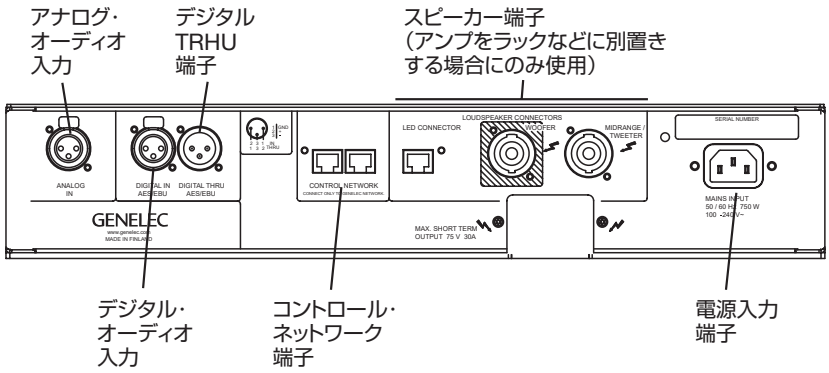


図 4. RAM-L2 アンプのコネクター・パネル

色	表示内容
緑 (点灯)	通常の状態。通常運用時。
緑 (点滅)	GLM がモニターと通信中です
10 秒毎に緑色の点滅	ISS 省電力スリープ・モードが有効です
赤 (点滅)	パワー・アンプのオーバーロード保護機能が有効です (保護回路により音声信号は変調されます)
赤 (点灯)	モニターがミュートされています
黄 (点灯)	モニターがアクティブな (再生中の) グループに属していません
黄 (点滅)	オーバーヒート保護機能が動作中 (保護回路により音声信号が制御されています)

表 1. フロントパネル LED の点灯モード

RAM-L2 アンプの電源ボタン

電源ボタンを短く押すと、RAM-L2 の電源をオン／オフできます。電源をオンにすると電源ボタンの LED が素早く点滅し、起動が完了すると点灯状態になります。

ボタンを 5 秒以上長押しすると、モニターは工場出荷時の設定にリセットされます (表 3 参照)。

ISS ™の設定

ISS ™ (Intelligent Signal Sensing) は、モニターを自動的に省電力スタンバイ・モードに切り替える機能です。工場出荷時の初期設定では、「OFF」に設定されています。ISS 機能は、GLM ソフトウェアで有効にできます。ISS を有効にすると、選択した時間内にオーディオ信号が検出されない場合、モニターが自動的にスタンバイ・モードに入ります。入力信号が再び検出されると、モニターはスタンバイ・モードから復帰します。ISS の設定は、選択中のセットアップに含まれるすべての ISS 対応モニターに適用されます。

ケーブル径	最大長
2.0 mm^2 (14 AWG)	30 m
3.3 mm^2 (12 AWG)	40 m
5.3 mm^2 (10 AWG)	60 m

表 2. ケーブル長に応じた最小ゲージ

接続

「MAINS INPUT」(電源入力) 端子

電源接続用の端子です。

「DIGITAL IN AES/EBU」(AES/EBU デジタル入力) 端子

初期設定では、8380A はアナログ入力信号を再生するように設定されています。適切な AES/EBU デジタル・オーディオ入力信号が検出されると、入力ソースが自動的にデジタル入力に切り替わります。GLM ソフトウェアを使うことで、再生する AES/EBU サブフレームを定義できます。

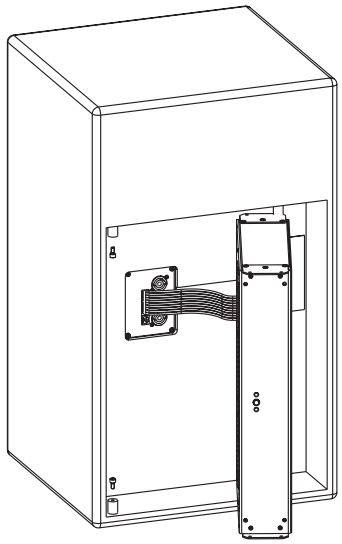


図 6. アンプの左側を引き出し、エンクロージャーからフラット・ケーブルを取り外します

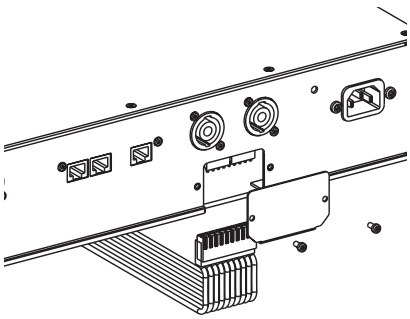


図 7. フラット・ケーブルのカバー・プレートを取り外し、フラット・ケーブル・コネクターを外します。カバー・プレートを交換します

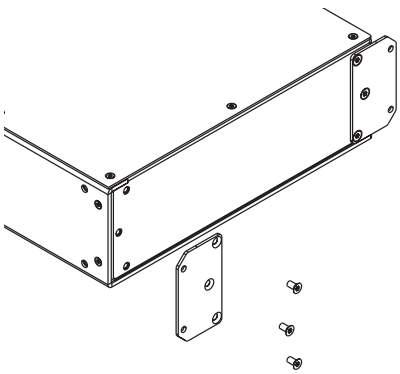


図 8. 前面のラック耳を取り外します

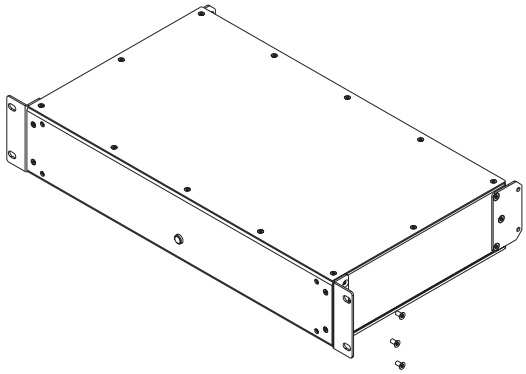


図 9. L 字型ラック耳を取り付けます

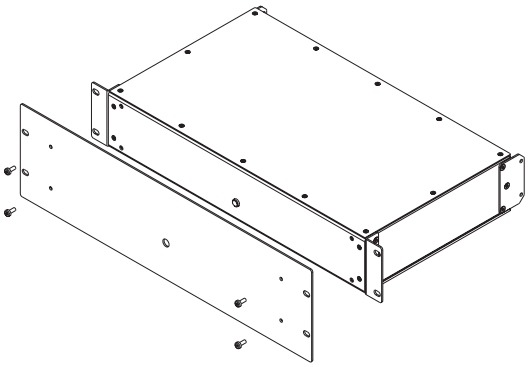


図 10. フロント・プレートを取り付けます

「DIGITAL THRU AES/EBU」（デジタル THRU）端子

入力されたデジタル･オーディオ信号のコピーをそのまま出力する端子です。最大 3 台（合計 4 台）までの SAM モニターおよびサブウーファーへのデイジーチェーン接続ができます。

「ANALOG IN」（アナログ入力）端子

アナログ入力の最大入力レベルは、+25.0 dBu です。再生音に歪みが生じる恐れがあるため、過入力によるオーバーロードにご注意ください。最大入力値を超えると、フロント・パネルの LED が赤く点灯し、オーバーロードを示します。

モニター・システムの感度は、GLM ソフトウェアで設定します。工場出荷時の 8380A はアナログ入力感度が最大値に設定されており、-6 dBu のアナログ入力信号に対して 100 dB SPL のサウンド・レベルを出力します。

「CONTROL NETWORK」（コントロール・ネットワーク）端子

RJ-45 端子にて、モニターを Genelec 独自の GLM™（Genelec Loudspeaker Manager）ネットワークに接続します。イーサネット LAN には接続しないでください。

「Loudspeaker Connectors」（スピーカー接続）端子

これらの端子は、RAM-L2 アンプを機器ラックなどに別置きで配置する場合に使用します。

1. 「LED」
   フロントパネルの警告 LED 動作のための RJ-45 ソケット。
2. 「WOOFER」
   ウーファー動作のために標準 4 芯スピコン・ケーブルを接続する端子。
3. 「MIDRANGE/TWEETER」
   ミットレンジおよびツイーター動作のために標準 4 芯スピコン・ケーブルを接続する端子。

フロント・パネルの点灯機能

エンクロージャの DCW パネルにある LED は、8380A が正常に動作している場合、緑色に点灯します。その他のインジケーター表示とその原因については、表 1 をご参照ください。

RAM-L2 アンプを 19 インチ・ラックにマウントする

RAM-L2 アンプは、エンクロージャから取り外して標準的な 19 インチ・ラックに設置することができます。ラック・マウント用の部

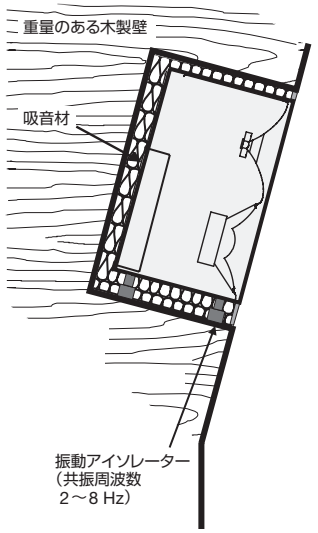


図 11. 木製の壁面にモニターを埋め込んで設置

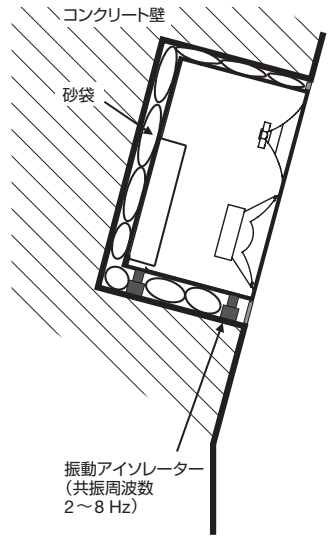


図 12. コンクリート壁にモニターを埋め込んで設置

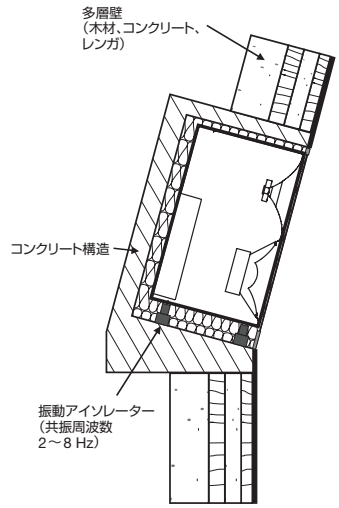


図 13. 複数の素材で構成された壁にモニターを埋め込んで設置

ボタンの操作	機能	備考
短く押す	電源オン / オフ	
長押し	工場出荷時の設定に復帰	ボタンを 5 秒以上押す

表 2. 電源ボタンの動作

品（フロント・プレート、ブラケット、ネジ）は、8380A に同梱されています。

各モニターの接続には、2 本の 4 芯スピコン・ケーブル（ピン・ツー・ピン、全ピンが結線）と、アンプとモニター・エンクロージャを接続する適切な長さの LAN（RJ45）ケーブルが 1 本必要です。これらのケーブルは、8380A 本体には付属しません。ケーブル長に応じた最小ケーブル径については、表 2 をご参照ください。

RAM-L2 アンプは、製品に同梱されるモニター・ユニットに合わせて工場出荷時に 1 台ずつキャリブレートされています。設置の際は、アンプとエンクロージャの組み合わせを混在させないよう十分にご注意ください。

ラック・マウントの手順は、以下の通りです。

1. アンプからすべての信号ケーブルおよび電源ケーブルを取り外します。
2. 左側上下部にある防振マウント用ネジ 2 本を外します。
3. アンプの左側を引き出します（図 6 参照）。
4. エンクロージャからフラット・ケーブルを取り外します。
5. 右側の防振マウント用ネジ 2 本を外し、アンプを完全に取り外します。
6. フラット・ケーブル端子のカバー（「DIRECT LOUDSPEAKER CONNECTOR」と記載）を取り外します（図 7 参照）。このカバーは、アンプを取り外した際に 8380A 付属の「FOR REMOTE AMPLIFIER USE」カバーと交換してください。
7. フラット・ケーブルをアンプ本体から外します。
8. 「FOR REMOTE AMPLIFIER USE」カバーをフラット・ケーブル端子に取り付けます。
9. フロントのマウント耳を取り外します（図 8 参照）。
10. 付属の L 字型ラック・マウント・ブラケット 2 個を取り付けます。付属のフロント・プレートを取り付けます（図 9 および図 10 参照）。
11. アンプを 19 インチ・ラックにマウントします。
12. RJ45 端子からプラスチック・カバーを外します。アンプとエンクロージャを 2 本のスピコン・ケーブルと 1 本の RJ45 ケーブル（LED CONNECTOR）で接続します。
13. 信号ケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

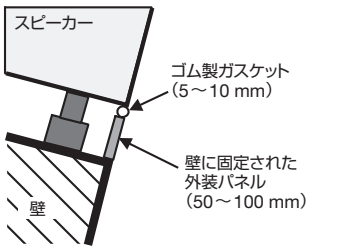


図 14. 壁面とエンクロージャーの隙間を覆う様子

モニター・エンクロージャを壁に埋め込んで設置する

モニターを壁に埋め込んで設置することで、音響特性の向上が得られます。エンクロージャの角による回折が発生せず、モニター背面の壁からの反射による低域のキャンセレーションを抑えることができます。設置の際は、モニターの音響軸（図 1）がリスニング位置へ向くようにモニターを調整します。モニターを設置する壁は、剛性が高く重量のある構造である必要があります。モニターの設置角度は 15 度未満とし、高すぎる位置への設置は避けてください。

モニターの周囲には 50 ～ 100 mm の隙間を空けることができますが、この隙間は前面をパネルで覆う必要があります。モニターとパネルの間には 5 ～ 10 mm の隙間を設け、その隙間を柔らかいゴム製ガスケットで塞いでください（図 14 参照）。モニターは、防振材（振動アイソレーター）を介して設置してくだ

設定	値
レベル補正	0 dB（標準感度）
デジタル入力感度	0 dB（通常感度）
ルーム・キャリブレーション・フィルター・ゲイン	0 dB（適用なし）
拡張された位相直線性	OFF
入力選択	自動
到達時間遅延	0 ms
ベース・マネージメント・フィルター	フルバンド
ISS スリープ遅延時間	スリープなし
ISS 感度	高
追加ゲイン	OFF
システム起動時レベル	0 dBFS（最大感度）
システム・レベル制限	なし
デジタル入力サブフレーム選択	A+B

表 3. 工場出荷時の設定

さい。設置後の共振周波数は、2 Hz ～ 8 Hz の範囲が理想です。

壁内部に空洞がある場合は、吸音用グラスウールまたは発泡プラスチックで充填してください。木造壁の場合は、十分な補強を施してください（図 11 参照）。コンクリートなどの硬質な壁構造の場合は、エンクロージャの周囲を吸音用グラスウールまたは砂袋で充填してください（図 12 を参照）。

エンクロージャが壁の表面と面一（つらいち）になるようにしてください。装飾用のクロス・フレームで壁面を覆う場合は、モニターに隣接する縁の深さが 20 mm 以下であることを確認してください。また、音響透過性のクロスをお使いください。

アイコンについて

WEEE 指令 2012/19/EU

電源 / スタンバイ・スイッチ

IEC 60417-6044 アイコン

安全性についての検討事項

8380A モニターは 100dBSPL を大幅に超えるサウンド・レベルを出力します。したがって、たとえ短時間の使用であっても、深刻かつ恒久的な聴覚障害を引き起こす恐れがあります。聴覚障害のリスクを低減するため、音響暴露レベルは、週あたり（40 時間換算）、1 日あたり（8 時間換算）共に、80 dB 以下に制限することが推奨されます。過度のサウンド・レベルを事故または偶発的に暴露することを防ぐための注意が必要であり、稼働中のシステムの近くで作業する場合は聴覚保護具を常に着用する必要があります。

Genelec では、8380A を操作するユーザーの音響暴露が、欧州委員会による作業場における騒音指令 2003/10/EC で定められた制限を超えないことを推奨しています。地域の規定がより厳しい場合は、その制限を遵守する必要があります。

8380A は国際安全基準に準拠するように設計されていますが、安全な動作を確保し、ユニットを安全な動作条件下に保つため、以下の警告と注意を順守する必要があります。

警告！

Genelec 8380A は、恒久的な聴覚障害を引き起こす 85 dB 以上の音圧レベルを出力します。

メンテナンス

スピーカーおよび RAM-L2 アンプ内部には、ユーザー自身による点検修理が可能な箇所はありません。製品の保守および修理は、必ず Genelec 認定サービスをご利用ください。

保証について

Genelec 8380A には、製造時の過失や欠陥に対し 2 年間の保証が付帯します。さらに製品登録を行うことで、保守パーツを含む 3 年間の追加保証が適用されます。販売条件および保証に関する詳細は、販売店にお問い合わせください。

アクセサリー

Genelec では、様々な設置環境に対応したモニター用アクセサリーを幅広く取り揃えています。最新情報は、www.genelec.jp またはお近くの販売代理店にて、Genelec アクセサリー・カタログを確認ください。

FCC 規則への準拠

本製品は FCC 規則第 15 部に準拠しています。以下の条件に従って動作します。

1. 本製品が有害な干渉を引き起こすことはない。
2. および本製品は、誤動作を発生させる可能性を含むあらゆる干渉を許容する必要がある。

注意：本製品は、テストの結果クラス B デジタル機器の制限に適合し、FCC 規則第 15 部に準拠していることが認められています。これらの制限は、住宅への設置によって生じる有害な干渉からの適切に保護することを目的としています。本製品は無線周波エネルギーを発生、使用、また放射することがあるため、指示に従わずに設置および使用された場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置で干渉が生じないという保証はありません。本製品がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合（機器電源をオン / オフすれば判別できます）、以下の 1 つ以上の対処方法を試してみることをお勧めします。

1. 受信アンテナの向きまたは場所を変更する。
2. 本製品を受信機から遠くに設置する。
3. 受信機が接続されているコンセントと別系統のコンセントに本製品を接続する。
4. 取扱店または経験豊富な無線 / テレビ技術者に問い合わせる。

製造者の許諾を得ずに変更を加えると、FCC 規則に準拠しなくなり、機器を操作する権限が取り消される場合があります。

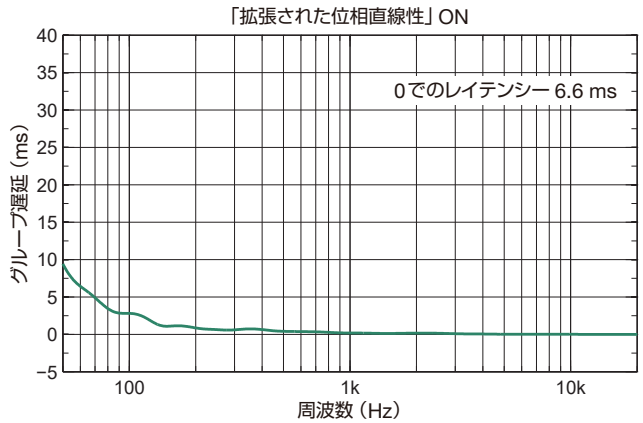


図 15. 8380A 群遅延特性（「拡張された位相直線性」オン）

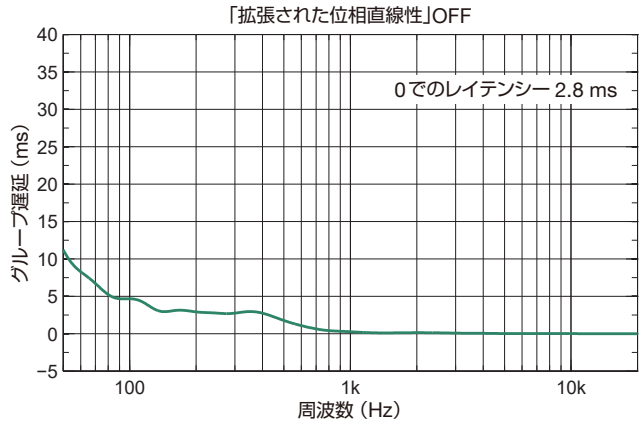


図 16. 8380A 群遅延特性（「拡張された位相直線性」オフ）

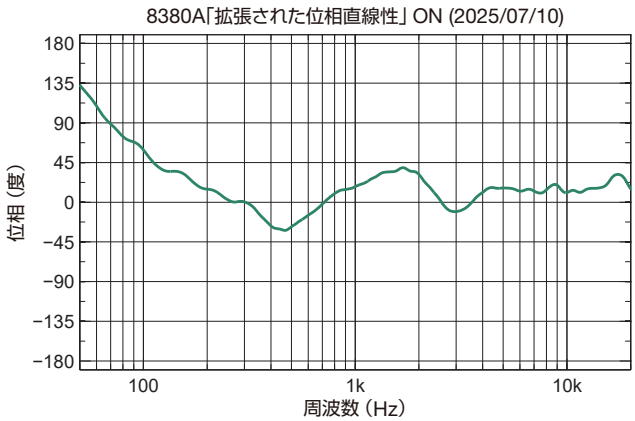


図 17. 8380A 位相特性（「拡張された位相直線性」オン）

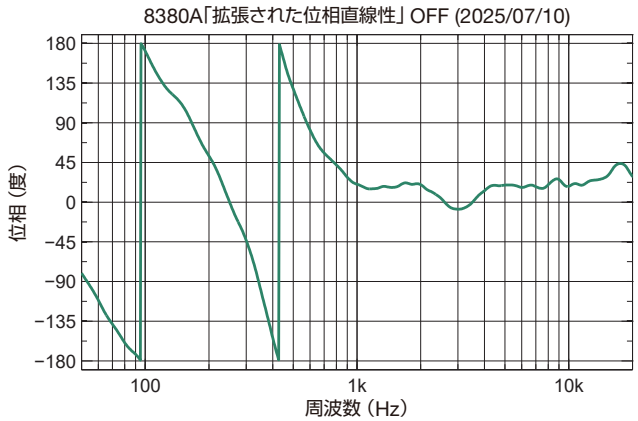


図 18. 8380A 位相特性（「拡張された位相直線性」オフ）

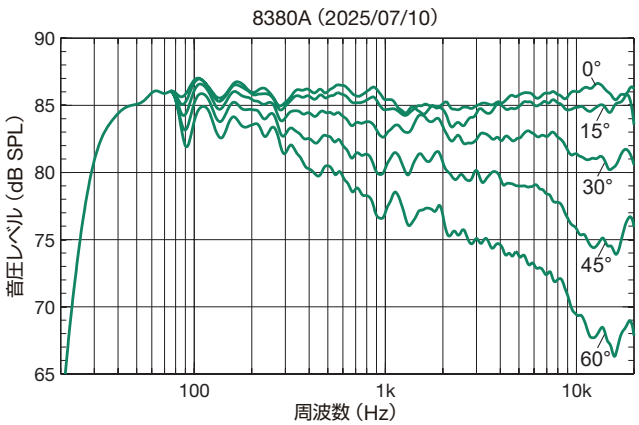


図 19. 8380A 水平指向特性（縦置き @ 2m）

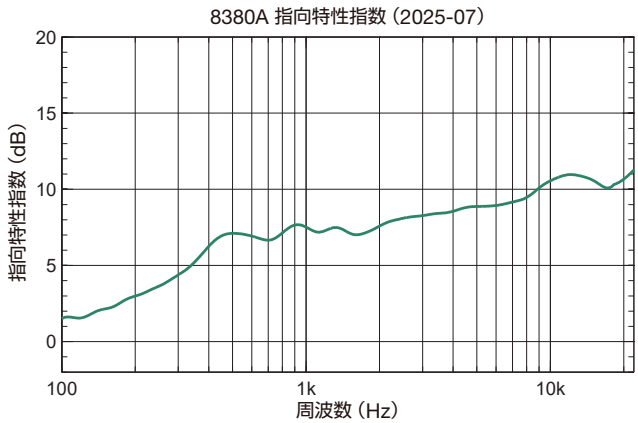


図 20. 8380A 指向性指数

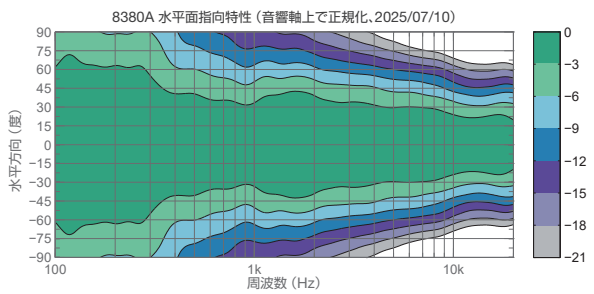


図 21．8380A 水平指向特性分布

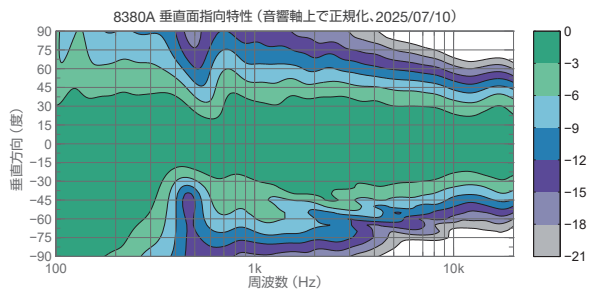


図 22．8380A 垂直指向特性分布

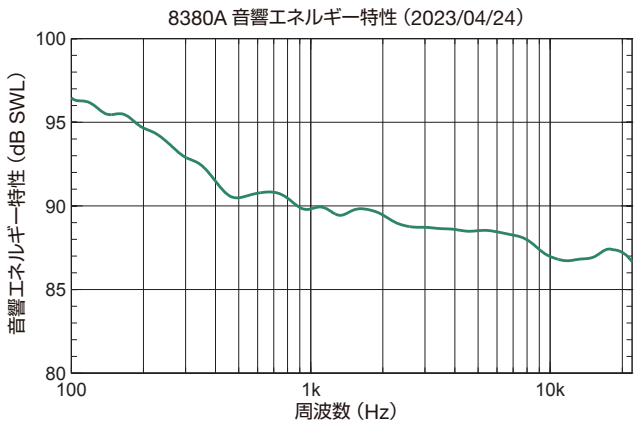


図 23．8380A 音響エネルギー特性（1/6 オクターブ・スムージング）

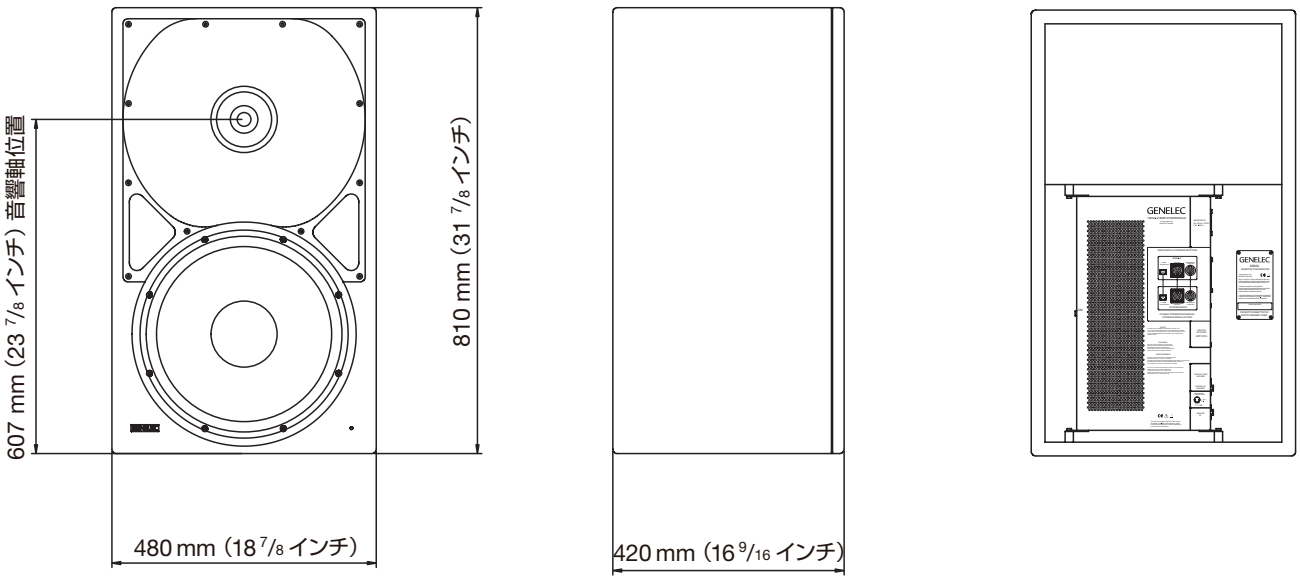


図 24．8380A 寸法

システム仕様

	8380A
低域カットオフ周波数、-6 dB：	≤ 29 Hz
高域カットオフ周波数、-6 dB	≥ 43 kHz
周波数レスポンスの精度（± 1.5 dB）：	38 Hz ～ 20 kHz
瞬間最大音圧レベル、軸上、半空間、@ 1 m、100Hz ~ 3kHz サイン正弦波の平均	> 122 dB SPL
瞬間最大音圧レベル、軸上、半空間、@ 1 m、50Hz ~ 100Hz サイン正弦波の平均、THD 10%	> 118 dB SPL
IEC 規定のテスト信号による最大連続 RMS 音響出力（ドライバー保護回路による制限あり）、@1 m	> 115 dB SPL
ペア毎の最大ピーク音圧レベル、@2 m、リスニング・ルームでの音楽ソース	> 124 dB SPL
自己生成ノイズ・レベル、自由空間、軸上 @1 m（A 特性）	≤ 0 dB
高調波歪み、95 dB SPL、軸上 @1 m 周波数 > 50 Hz	 ≤ 0.5%
入力から音声出力までの最小遅延 「拡張された位相直線性」ON 「拡張された位相直線性」OFF	 6.6 ms 2.8 ms
ドライバー ウーファー 同軸ミッドレンジ 同軸ツイーター	 380 mm（15 インチ）コーン 130 mm（5 インチ）コーン 25 mm（1 インチ）メタル・ドーム
重量（アンプ内蔵時）	54 kg
重量（アンプなし）	48 kg
アンプ重量	6 kg
寸法（モニター・エンクロージャ） 高さ 幅 奥行き	 810 mm 480 mm 420 mm
アンプ寸法（ラック・マウント構成において） 高さ（フロント・パネル） 高さ（アンプ筐体） 幅（フロント・パネル） 幅（アンプ筐体） 奥行き	 3U 132 mm 80 mm 483 mm 425 mm 252 mm

アンプ・セクション

	8380A
ウーファー・アンプ瞬間出力 ミッドレンジ・アンプ瞬間出力 ツイーター・アンプ瞬間出力 長時間出力はドライバー保護回路により制限	500 W 250 W 200 W
アンプ・システム THD（通常出力時）	< 0.01%
フル出力に対する SN 比 ウーファー ミッドレンジ ツイーター	 > 115 dB > 115 dB > 115 dB
電源電圧	AC100 ～ 240V、50/60 Hz
消費電力 スタンバイ アイドル時 フル出力 過電流保護装置および電源ケーブル電源ケーブル選定用電力（フル出力、IEC ノイズ）	 < 0.5 W 21 W 800 W 150 W
空調システムの冷却負荷。標準的な使用条件（90 dB SPL @ 1 m） モニター・エンクロージャ アンプ	 3 W / 10 BTU/hr 22 W / 75 BTU/hr

信号処理セクション

	8380A
アナログ入力端子、XLR メス、バランス 10 k Ω 最大アナログ入力信号 アナログ入力感度（100dBSPL @1 m）	ピン 1：グランド ピン 2：正相 ピン 3：逆相 +25.0 dBu -6 dBu
デジタル信号入力端子、XLR メス、110 Ω デジタル信号出力 /Thru 端子、XLR オス、110 Ω	AES/EBU シングル・ワイヤー AES/EBU シングル・ワイヤー
デジタル・オーディオ入力 ワード長 サンプル・レート デジタル入力感度 (100 dB SPL@1 m)	 16 ～ 24 ビット 32 ～ 192 kHz -30 dBFS
コントロール・ネットワーク タイプ 接続	 Genelec GLM ™ ネットワーク RJ45、LAN ケーブル x 2
クロスオーバー周波数 ウーファー／ミッドレンジ ミッドレンジ／ツイーター	 470 Hz 2.5 kHz
GLM™ ソフトウェアの周波数特性調整 パラメトリック・ノッチ・フィルター シェルビング・フィルター	 16 LF x 2、HF x2
システム・キャリブレーション	Genelec GLM AutoCal ™

8380A オペレーティング・マニュアル

Genelec ドキュメント D0221R001a-01。Copyright Genelec Oy および株式会社ジェネレックジャパン 2026 年 3 月　すべてのデータは予告なく変更される場合があります。

www.genelec.jp

GENELEC®

株式会社ジェネレックジャパン
＜本社＞
〒 107-0052
東京都港区赤坂 2-22-21
www.genelec.jp/customer-service/

【修理お問い合わせ先】
ジェネレックサービスセンター
電話番号：050-3786-1236
平日 10:00 ～ 18:00
（夏季 / 年末年始を除く）

修理のご依頼は、お電話または修理依頼フォームがご利用いただけます。修理依頼フォームは、ウェブサイトのカスタマー・サービス内にご用意しております。
www.genelec.jp/customer-service/